

アサヒグループ食品(株) 技術開発三部



アサヒグループ独自の機能性素材を世に出すために

アサヒグループの機能性研究によって生まれた独自素材を商品に活用するために、食品原料としての生産や供給を支える技術開発に取り組んでいます。新たな乳酸菌素材の工業生産立ち上げに代表される新規素材開発のほかにも、すでに事業に活用されている機能性素材のコストダウン技術開発や機能性成分の分析技術開発などを通じて、グループ独自素材を活用した機能性食品事業の発展に貢献しています。

グループ独自素材の製造技術開発

ラクトリペプチドなどの乳由来ペプチドや、L-92 乳酸菌・CP2305 ガセリ菌などの乳酸菌といったグループ独自素材に関して、工場での生産立ち上げやコストダウン製法の開発などに取り組んでいます。

機能性成分の分析技術開発

グループ独自素材に含まれる主要な機能性成分の規格化や、素材などの品質確認に必要な定量試験法の開発、分析精度検証に取り組んでいます。定量試験はHPLCやLC-MS/MSを用いた分析から、蛍光染色法による乳酸菌数測定や酵素活性評価法など多岐にわたります。

グループ独自素材の事業活用支援

グループ独自素材をアサヒグループの最終製品に使用したり、海外でBtoB販売する際に必要な技術情報資料作成をはじめとして、社内外の関連部門が独自素材を事業にフル活用するために必要な業務のサポートを実施しています。

アサヒバイオサイクル(株) サステナビリティ事業本部 R&D部



「枯草菌C-3102株」



微生物研究で畜産・農業業界へ

安全で良質な肉や卵を育むために、天然由来の商品を研究開発しています。私たち人間や動物の消化管には、無数の微生物が存在し、そのバランスが健康を左右することもあります。当社では長年にわたる微生物研究を家畜のすこやかな成育をサポートする技術へと応用する研究に取り組んでいます。

また、当社ではビール酵母細胞壁を活用した農業資材も取り扱っており、安定した農作物生産などに貢献しています。農業分野に対する技術的なサポートにも取り組んでいます。

極力抗生物質を使用しない畜産物生産へ

世界的に安全・安心な畜産物へのニーズが高まるなか、畜産業界は、成長増進目的での抗生物質を使用しない畜産物生産への対応を迫られています。抗生物質に頼らなくても家畜を健康に育てることができ、飼料を効率よく利用できる研究開発は、海外の畜産関係者からも注目されています。

飼料添加物「カルスポリン」

「枯草菌C-3102株」を有効成分とする、牛・豚・鶏用の飼料添加物です。適量を毎日給与すると家畜の腸内有用菌が増加します。哺乳類の場合はビフィズス菌と乳酸菌が、鶏の場合は乳酸菌が優勢菌になります。

バチルス属細菌混合飼料「カリターミックス」

堆肥の発酵は、微生物の働きによるもので、中でもバチルス菌は欠かせません。活躍する温度帯の異なる2種のバチルス菌 (*Bacillus subtilis* C3102, *Bacillus coagulans* CP3425) を組み合わせることで、発酵温度のスムーズな上昇をサポートし、有害菌の殺菌・発酵時間の短縮に貢献します。